

〈道徳〉

主体的に考え豊かな心を育てる学習指導の工夫

——対話型授業とファシリテーション手法を通して——

宮古島市立久松中学校 教諭 下地直樹

I 主題設定の理由

21世紀は、「知識基盤社会」であると言われ、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」をはぐくむことが重要であると、学習指導要領で謳われている。そして、中学校学習指導要領解説道徳編において、「生きる力」とは変化の激しい社会において、人と協調しつつ自律的に社会生活を送ることができるようになるために必要な、人間としての実践的な力であり、豊かな人間性を重要な要素であるとしている。

しかし、OECD（経済協力開発機構）のPISA調査などの各種調査では、自分への自信の欠如や自らの将来への不安等に課題が挙げられ、豊かな心をはぐくまれていない状況がある。沖縄県の学校教育における指導の努力点でも、児童生徒一人一人に豊かな心をはぐくみ、自らの人生をよりよく生きていけるようにするためには、自他の生命を尊重する心を基盤に、善悪の判断などの規範意識及び公共の精神等が重要視されている。

私のこれまでの道徳授業実践では、基礎的な内容や意義を教師が伝え、生徒に自己のあり方やこれからの生活について考えさせる教師主導の授業展開や、道徳的判断を支え道徳性を高めるコールバークの道徳性の発達段階理論に基づくモラルジレンマを取り入れた授業を行ってきた。授業で活用する資料にもよるが、前者では展開が教師と生徒の一问一答の授業になりがちであったり、後者においては討論で負けたくないとの思いが強すぎて発達段階の高まりが見られないなど、道徳的価値の補充、深化、統合がされていないという課題があった。

本校2学年の実態として、道徳授業での読み物資料において、登場する人物に自分を置き換えて素直で建設的なまとめを行うことができているが、ワークシートには学級全体に同様な言葉が並んでいる。原因として挙げられるのは、中心的で力のある男子生徒と相反する価値の発言ができない、成績優秀で賢い女子生徒の発表したことが全てで、これ以上の価値はないような風潮である。そして、実際の行動では、授業中に私語の多い友人を注意できない、当番活動や係活動の怠け、好きな友人とそうでない級友及び男性教師と女性教師との接し方の違いなど、必ずしも道徳性が育まれているといえない状況が起こっている。

そこで本研究では、ファシリテーションの手法を取り入れた少人数による対話型授業により、より多くの生徒の発言を引き出し高める工夫をすることによって道徳的価値が形成され、主体的に考え強い意志をもって道徳的行為を実践しようとする生徒が育成できると考え、本テーマを設定した。

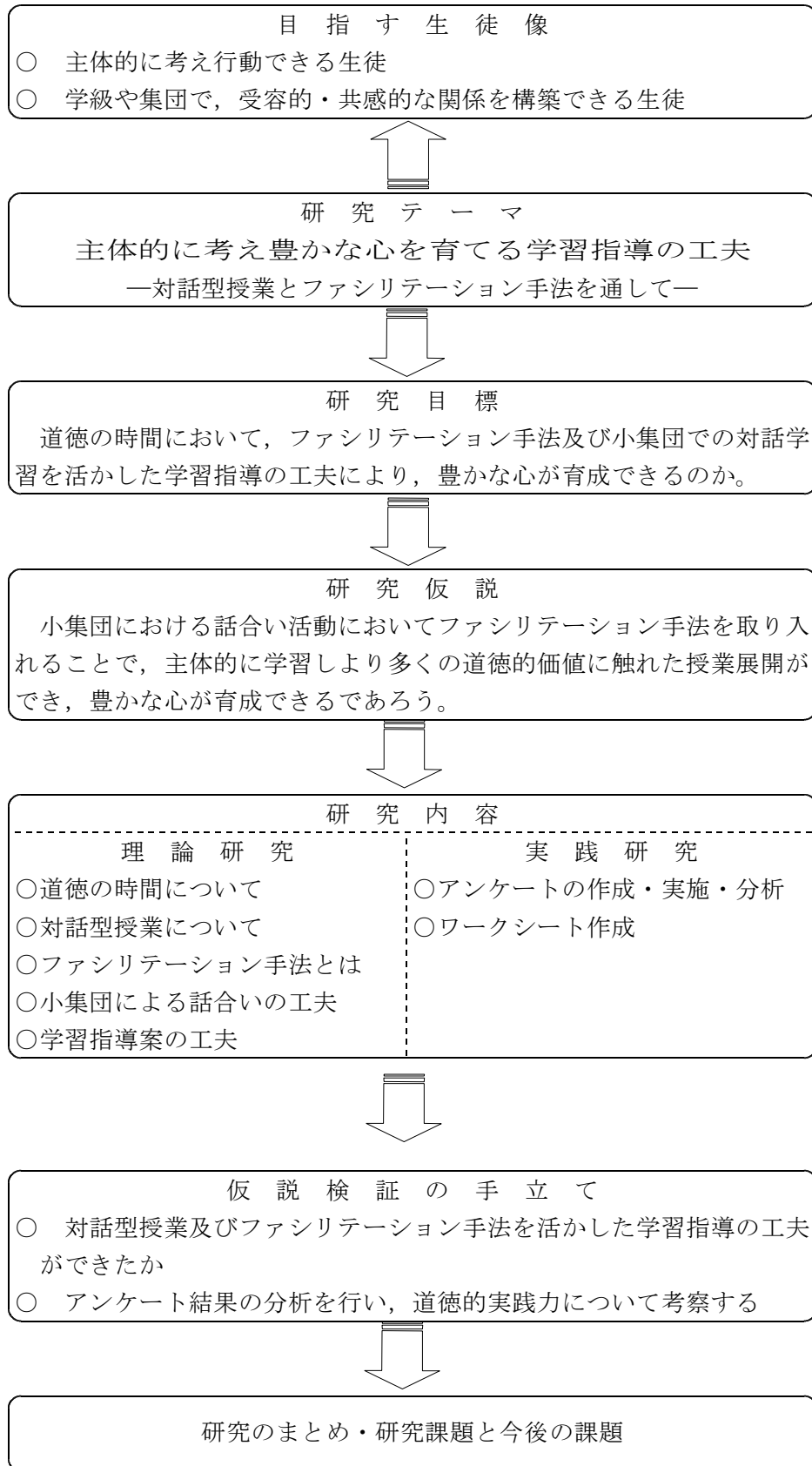
II 研究目標

道徳の時間において、ファシリテーション手法及び小集団での対話を活かした学習指導の工夫をすることにより、正義感や公正さを重んじる心や他者との共生や異なるものへの寛容などの感性及び道徳的価値を大切にする心（豊かな心）の育成。

III 研究仮説

ファシリテーション手法を活用した小集団による対話活動を行うことで、主体的に学習し、より多くの道徳的価値に触れた授業展開ができ、豊かな心が育成できると考え、本テーマを設定した。

IV 研究構想図



V 研究内容

1 理論研究

(1) 道德教育について

① 道德の時間の取り扱い

学習指導要領解説解説において道德的実践力とは「人間としてよりよく生きていく力であり、一人一人の生徒が道德的価値を自覚し、人間としての生き方について深く考え、将来出会うであろう様々な場面、状況においても、道德的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践できるような内面的資質」と示されている。道德的实践をしようとする力が道德的实践力であるといえる。

ア 道德的实践（道德的行為）は、内面的な道德的实践力が基盤になければならない。

イ 道德的实践力が育つことによって、より確かな道德的实践ができる。

ウ 道德的实践を繰り返すことによって、道德的实践力も強められるのである。

エ 道德教育は、道德的实践力と道德的实践の指導が相互に響き合って、一人一人の道德性を高めていくものである。

オ 道德の時間が目指すものは、子どもの将来に生きる内面的な資質であり、間近の子どもの行動に資することを目的とするのではない。

カ 道德の時間の指導は、子どもの変容を直接的に求めるものではない。即効性を求めない。

② 各教科等における道德教育（各学習指導要領解説より抜粋）

ア 国語

国語による表現力と理解力を育成するとともに、人間と人間との関係の中で、互いの立場や考え方を尊重しながら言葉で伝え合う力を高めることは、学校の教育活動全体で道德教育を進めていく上で、基盤となるものである。また、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにすることは、道德的心情や道德的判断力を養う基本になる。さらに、国語を尊重する態度を育てることは、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛することなどにもつながるものである。

イ 社会科

社会科の目標を踏まえ、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深めることは、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛することなどにつながるものである。また、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者としての自覚をもち、自由・権利と責任・義務との関係を正しく認識し、権利・義務の主体者として公正に判断しようとする態度や能力などの公民的資質の基盤を養うことは、主として集団や社会とのかわりに関する内容などと密接なかかわりをもつものである。

ウ 数学科

数学科の目標を踏まえ、生徒が事象を数理的に考察し、筋道立てて考え、表現する能力を高めることは、道德的判断力の育成にも資するものである。また、数学を活用して考えたり判断したりしようとする態度を育てることは工夫して生活や学習をしようとする態度を育てることに資するものである。

エ 理科

理科の目標を踏まえ、自然の事象・現象を調べる活動を通して、生物相互の関係や自然

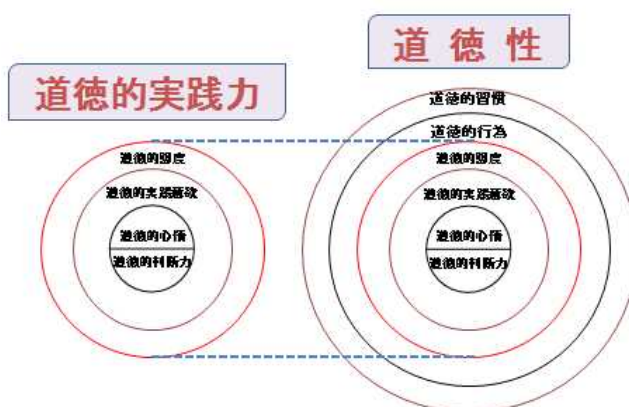


図1 道德の時間の取り扱い

界のつり合いについて考えさせ、自然と人間とのかかわりを認識させることは、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度の育成につながるものである。また、目的意識をもって観察、実験を行うことや、科学的に探求する能力を育て、科学的に見方や考え方を養うことは、道徳的実践力や心理を大切にしようとする態度の育成に資するものである。

オ 外国語科

外国語の目標を踏まえ、外国語を通じて、我が国や外国の言語や文化に対する理解を深めることは、世界の中の日本人としての自覚をもち、国際的視野に立って、世界の平和と人類の幸福に貢献することにつながるものである。

カ 音楽科

音楽科の目標を踏まえ、音楽を愛好する心情や音楽に対する感性は、美しいものや崇高なものを尊重することにつながるものである。また、音楽による豊かな情操は、道徳性の基盤を養うものである。なお、音楽の共通教材は、我が国の自然や四季の美しさを感じ取れるもの、我が国の文化や日本語のもつ美しさを味わえるものなどを含んでおり、道徳的心情の育成に資するものである。

キ 美術科

美術の目標を踏まえ、創造する喜びを味わうようにすることは、美しいものや崇高なものを尊重する心につながるものである。また、美術の創造による豊かな情操は、道徳性の基盤を養うものである。

ク 保健体育科

保健体育科の目標を踏まえ、集団でのゲームなど運道することを通して、粘り強くやり遂げる、ルールを守る、集団に参加し協力する、といった態度が養われる。また、健康・安全についての理解は、生活習慣の大切さを知り、自分の生活を見直すことにつながるものである。

ケ 技術・家庭科

技術・家庭科の目標を踏まえ、生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得することは、望ましい生活習慣を身につけるとともに、勤労の尊さ意義を理解することにつながるものである。また、進んで生活を工夫し創造しようとする態度を育てることは、家族への敬愛の念を深めるとともに、家庭や地域社会の一員としての自覚をもって自分の生き方を考え、生活をよりよくしようとすることにつながるものである。

コ 総合的な学習の時間

総合的な学習の時間の目標を踏まえ、総合的な学習の時間の内容は、各学校で定めるものであるが、例えば、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代社会の課題や生徒の興味・関心に基づく課題、地域や学校の特色に応じた課題、職業や自己の将来にかかわる課題などが考えられる。生徒が、横断的・総合的な学習や探求的な学習を通して、このような現代社会の課題などに取り組み、これらの学習が自己の生き方を考えることにつながっていくことになる。また、総合的な学習の時間においては、横断的・総合的な学習や探求的な学習を通して、主体的に判断して学習活動を進めたり、粘り強く考え解決しようとしたりする資質や能力、自己の目標を実現しようとしたり、他者と協調して生活しようとしたりする態度を育てることも重要であり、このような資質や能力及び態度の育成は道徳教育につながるものである。

サ 学級活動

特別活動は、道徳の時間に育成した道徳的実践力について、よりよい学校や学級の生活や人間関係を築こうとする活動の中で実際に言動に表すとともに、集団や社会の一員としてのよりよい生き方についての考えを深めたり、身に付けたりする場や機会でもある。そして、生徒が特別活動における様々な活動において経験した道徳的行為や道徳的な実践に

ついて、道徳の時間にそれらについて取り上げ、学級の生徒全体でその道徳的意義について考えられるようにし、道徳的価値として自覚できるようにしていくこともできる。さらに、道徳の時間での指導が特別活動における具体的な活動場面の中に生かされ、具体的な実践や体験などが行われることによって、道徳的実践力と道徳的実践との有機的な関連を図る指導が効果的に行われることにもなる。

(2) 対話型授業について

研究を進めるにあたり、道徳の時間における「対話型授業」は生徒のどのような姿を示すのかについて考えた。『中学校学習指導要領解説道徳編5章3節1(2)ウ』によれば、以下のよう

生徒が主体的に人間としての生き方を追求し、思考を深めるためには、生徒が道徳的価値を自分のこととしてとらえ、その価値とのかかわりで深く自己を見つめるようにすることが大切である。例えば、二人一組の対話や小集団による話し合い、自分の考え方をまとめて書く活動などを取り入れ、授業形態に工夫を加え、生徒が生き生きと活動し主体的に考え、さらにその考えを深められるようにする場面を設定することが、道徳の時間の指導効果を高めることにつながる。

(中略)

また、生徒と生徒が自分の感じたことや考えたことを語り合ったりするなど、話し合いが中心となる授業では、生徒同士が顔を見て話し合うことができるような座席の配置にするなどの工夫も大切である。

授業形態に工夫を加え、生徒が生き生きと活動し主体的に考え、さらにその考えを深められる場面を「対話型授業」に設定する。

多田孝志(2011)は「対話型授業とは、学習の中に対話を持ち込み、仲間と語り合うことにより新たな発見・価値を共有し、その過程で相互信頼や共創意識を高めていく授業の型である」と述べている。また、多田は「意見をすぐ出す子だけでなく、どの子も発言できる機会を意図的に設定することこそ、対話型授業の要諦である」と述べている。

そこで、小集団による話し合い活動を行い、生徒一人一人が発言する機会を十分に確保する。その中で生徒たちは、他者の意見を聞いて、自分の考えと比較をし、修正や変更を行うことができる。と考える。

生徒同士が自分の感じたことや考えたことを、互いの顔を見て語り合いができるような工夫として、座席の配置などが挙げられる。また多田は、目的をもった話し合いでは「そこはかたない配慮者」が、雰囲気づくりに重要な役割を果たす。対話指導の視点から、こうした役割ができる生徒を育てることも大切であると説いている。

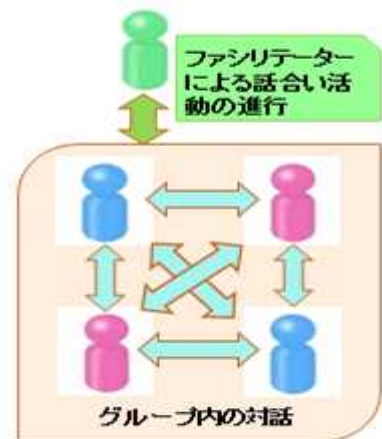


図2 話し合い活動の流れ

(3) 「そこはかたない配慮者」ファシリテーション手法について

① ファシリテーション手法とは

ファシリテーションは、「促進する」「容易にする」「円滑にする」「支援する」というのが原意である。参加者の活動が容易にできるように支援し、うまく事が進むように促していくのがファシリテーションの機能である。また、学習の場において学習を促進・支援する役割を総合的に担う人をファシリテーターと呼ぶ。堀公俊(2010)

ファシリテーターの働きは2つあり、参加者の主体的な学習を支援することと、参加者同士の相互作用を促進することになっている。本研究では、後者の参加者同士の相互作用の促進を活用する。

② ファシリテーションの手引きについて

授業の導入とまとめにおいては、むろん教師がファシリテーターとなるが、展開では各グループに1名ずつの生徒ファシリテーターを置いた。一朝一夕にファシリテーターとしての資質を育てられるわけではないが、よりよい対話型授業の創造の為に以下の注意点を挙げる。

- ア 中心となる生徒を選出する。
- イ 進行（ファシリテーター）・発表者・聴き手それぞれにルールを設定する。
- ウ 全員で雰囲気づくりに協力する。
- エ 進行は教師からの指示をしっかりと聞き、確実に班員へ伝える。
- オ 意見を対立させて勝敗を決めるのではなく、他者の意見を聞いて、自分の意見を修正したり変えたりして、よりよいまとめをねらいとすることを確認する。

③ ファシリテーター指名及びグループ編成について

ア ファシリテーターの指名

学級からの信頼があり、柔軟に話合いの状況に対応できること。議論を適切に進め、視点の変化や修正を適切に行える生徒数名を教師で選出した。

イ 小集団の人数

小集団の人数は男女混成の4人を基本単位とした。23名の学級を5班に編成して4～5名の小集団にした。4名の班に欠席者がでた場合は5名の班から1名を移動し、小集団が3名になることを避けた。

ウ 小集団の座席配置

班員同士が向かい合わせに着席し、他者の顔が見えるようにする。これにより、他者の意見に反応しやすくなり、表情や身振りからも話合い参加の度合いも計れると考えた。

(4) 小集団による話合いの工夫

対話型授業の根幹となる話合い活動ができる環境は、その時間だけでつくるものではなく、日々の実践で積み上げていくものである。よって登場人物の葛藤場面が描かれた資料など特定の読み物でしか扱えないような方法ではなく、道徳の年間指導計画を通して、どのような読み物資料でも活用できる方法であることが望ましいと考えた。話し合い活動には、他者に照らすことにより自分にはないものに気づくことや、話していく中で考え方が整理されていくことがある。自分以外の他者と向き合うこと、すなわち自分とは違うものに触れると新しい自分への発見にもつながる。話し合いの相互作用により、これまで一方的な場では得られることの少なかった新しい自分の発見がある。

ファシリテーション手法を用いて、多様な道徳的価値を発見させることにより、より良い道徳的価値への追求を自分と他者との相互作用を経て、自分の考えを見つめ直して新しい道徳的価値に気づかせるようにする。

① オープンクエスチョンについて

オープンクエスチョンとは生徒たちが本当に伝えたいことは何なのかを引き出す質問の技術である。言葉の「表層」ではなく、思考に寄り添う質問で生徒の話す内容や思考を深めることをねらいとした。ファシリテーターによるオープンクエスチョンにより、より具体的なエピソードや情報を共有することができる。発表者は自分でも気付かなかったイメージや考えが引き出されることになる。

オープンクエスチョン	
ア	～というど？
イ	どんな感じですか？
ウ	もう少し詳しく教えて
エ	例えば？
オ	具体的にはどんな感じ？
カ	どんなイメージ？
キ	エピソードを教えて
ク	ほかには？

例 昨日何してましたか	
●	「野球の練習試合をした」
↓	～というど？
●	「中体連春季総体が近いからね」
↓	もう少し詳しく教えて
●	「久松中・平良中・北中の3校でリーグ戦でやったよ」
↓	どんな感じだった
●	「平良には3対0、北には2対0で勝ったよ」
↓	エピソードを教えて（誰が活躍した？）
●	「○○がホームラン打った」
↓	ほかには？

表1 オープンクエスチョンの例

② クリティカルシンキングを活用する話し合い活動

クリティカルシンキングは一般的には「与えられた情報や知識を鵜呑みにせず、複数の視点から注意深く、論理的に分析する能力や態度」と定義される。他者の意見に対し思考・判断し、それを通して新たな見方や考え方を身に付けて発言することにより、話し合い活動を深められることができた。

③ ホワイトボードの活用

授業でのホワイトボード活用の目的として、課題や問いに対しての「可視化」の為の活用がある。本研究では、熟慮による資料との対話を基に、個人の考えをワークシートへ書き出せるようにできることも学級課題であることから、ホワイトボードは主発問に対する「共有」での活用にとどめた。まとめのみではあったが、一人一人の意見が活かされ、お互いの意見を聞き合いながら、主発問に対する合意形成や課題解決ができたと考える。

(5) 学習指導案の工夫

赤堀博行（2013）は、学習指導案について次のように述べている「道徳の時間の学習指導案は、授業をしようとする教師が、年間指導計画に位置付けられたそれぞれの主題を指導するに当たって、子どもや学級の実態に即して、教師自身の個性を生かして作成する指導計画です」。学習指導案には、特に決まった形式はなく、本研究を進める中での学習指導案については、赤堀著の「道徳授業で大切なこと」を参考に以下の事項について検証した。

① 資料名及び出展

学習指導案には、道徳の時間で使用する中心資料の名称を記載することとなっている。資料の取り扱いについて、多くの文献に著作権があることに留意する必要がある。

ア 活用する読み物資料は、出版社名や副読本名をそのままの表記で記述する。新聞記事や一般図書を資料として活用する場合も同様。また、映像資料を中心資料とする場合にも、制作元含めて出展を明らかにすること。

イ 活用する資料の表題はそのまま記し、漢字への直しや仮名への開きは行わない。

ウ 資料を授業で使用する場合、授業者及び生徒数分であれば著作権者の許諾を得ずに、著作物をコピーしてもよい。ただし、授業参観者（保護者や他の教職員）への配布は、著作権者への許諾が必要となる

エ 資料内容の変更（例：電車をモノレールに変える、長文なので割愛をする等）は、上記ウと同様に、授業者及び生徒数分であれば許諾の必要なし。

② 主題設定の理由に示す事項

授業を行う上で、最も大切なことは授業者が明確な指導観をもつことである。指導観とは次の三つの要素から成り立つと考えられている。

ア ねらいとする道徳的価値について（価値観）は、授業者が指導する主題に含まれる道徳的価値を理解して、自分なりの考え方を持つことが基本である。留意すべきこととして、道徳的価値の考え方が独善的であってはならず、学習指導要領の内容（中学校 24 項目）を押さえることが必要である。

イ 子どもの実態について（生徒観）は、ねらいとする道徳的価値を視点とした生徒の実態を示すことであり、「本学級の生徒は全体的に発言力があり、自分の考えたことを進んで発表でき・・・」のような学級の状態ではなく、本時の内容項目に合わせた実態を示す。

ウ 資料について（資料観）は、授業者のねらいとする道徳的価値に関わる考え方（価値観）や子どものねらいとする道徳的価値に関わるこれまでの学びと、そこで養われた道徳性の状況に基づいて、この授業で子どもがどのようなことを学ぶことを目指すのか（生徒観）を基に、資料活用の方向性を再確認する。

エ これらの一連の流れを分析図としてまとめる（授業実践図 3 資料分析図）。

VI 仮説検証のための授業実践

1 主題名 薬物から身を守る (内容項目1-(1), 関連項目1-(2))

1-(1)望ましい生活習慣
1-(2)希望・強い意志

2 ねらいと資料

薬物には手を出さない強い意志をもち、よりよく生きていこうとする態度を育てる。

● 資料「Just Say No！」

沖縄県版 中学校 みんなで生き方を考える道徳 株式会社日本標準

3 主題設定理由

(1) 価値観 (中学校学習指導要領解説道徳編より抜粋)

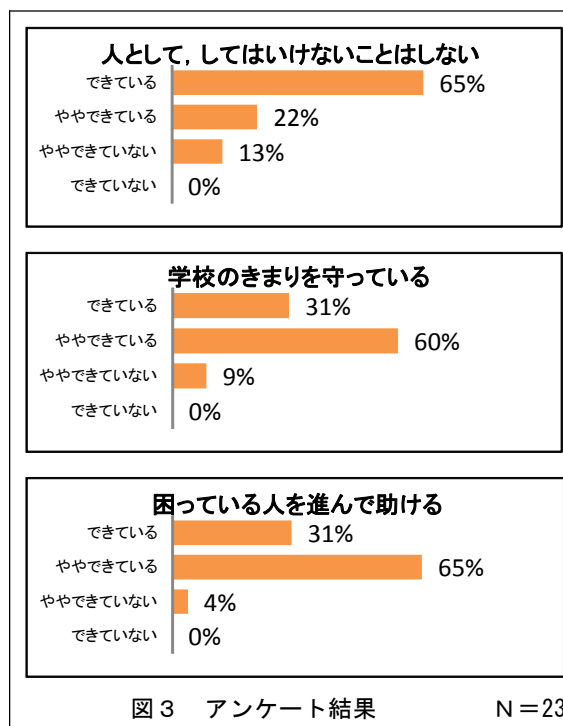
望ましい生活習慣を身に付けることは、心身の健康を増進し、気力と活力に満ちあふれた充実した人生を送る上で欠くことのできないものである。また、心身を鍛え、調和のある生活することは人格形成にも深くかかわる。しかし、現代社会においては環境や生活様式の変化も大きく、若者の欲望や衝動を刺激するものも少なくない。したがって、生活のあらゆる場において節度を守り節制に心掛け、心身の調和のある生活の現実に努めることは、自己の人生を豊かにし、意義ある生き方につながることを理解できるようにする必要がある。

中学生の時期は、心身ともに著しい発達をみせ、活力にあふれ意欲的に活動できる。しかし、心と体の発達が必ずしも均衡しているわけではないので、軽はずみな行動によって健康を損なったり、時間や物の価値を軽視してその活用を誤ったりするなど、衝動にかられた行動に陥ることもある。また、これまで身に付けてきた基本的な生活習慣に対して、対面的には反発や抵抗を示すこともある。

(2) 生徒観

主題に関する事前アンケート結果より(表2)、「人として、してはいけないことはしない」と訪ねたところ、15名の生徒ができていると回答した。ややできていると合わせると20名の生徒が肯定的な回答ではあるが、ややできていないと回答した生徒が3名いる。また、「学校のきまりを守っている」の質問に対して、できていると回答した生徒は7名のみとなっており、望ましい生活習慣の形成に課題があると考えられる。

中学第2学年の内容項目1-(1)「望ましい生活習慣」についての指導は各教科では行われておらず、第1学年まで遡っても道徳の時間の2時間のみであった。日々の生活指導の中で行っているものの、授業として扱っていないことにより、アンケート結果からの課題に至ったと考える。よって「望ましい生活習慣」について、補充を行う必要がある。



(3) 資料観

資料「Just Say No！」は、薬物が身近なところまで広がっていることから、薬物の恐ろしさを知り、薬物に手を出さない強い意志をもつことを、生徒と対話するようにまとめた資料である。

本学年の生徒には、中学校入学後に喫煙による生活指導を受けた生徒が数名いる。その指導が活かされその後の喫煙による指導はないものの、これからの学校生活の中で喫煙等の誘惑はないと言い難く、「No!」と断れる強い意思をもたせるようにしたい。また、授業者の体験（薬物に手を染めた友人の存在）をもとに、「No!」と言える強い意志と、身の回りの人々が喫煙や薬物に手を出させない社会秩序の向上について考えさせたい。

(4) 資料分析

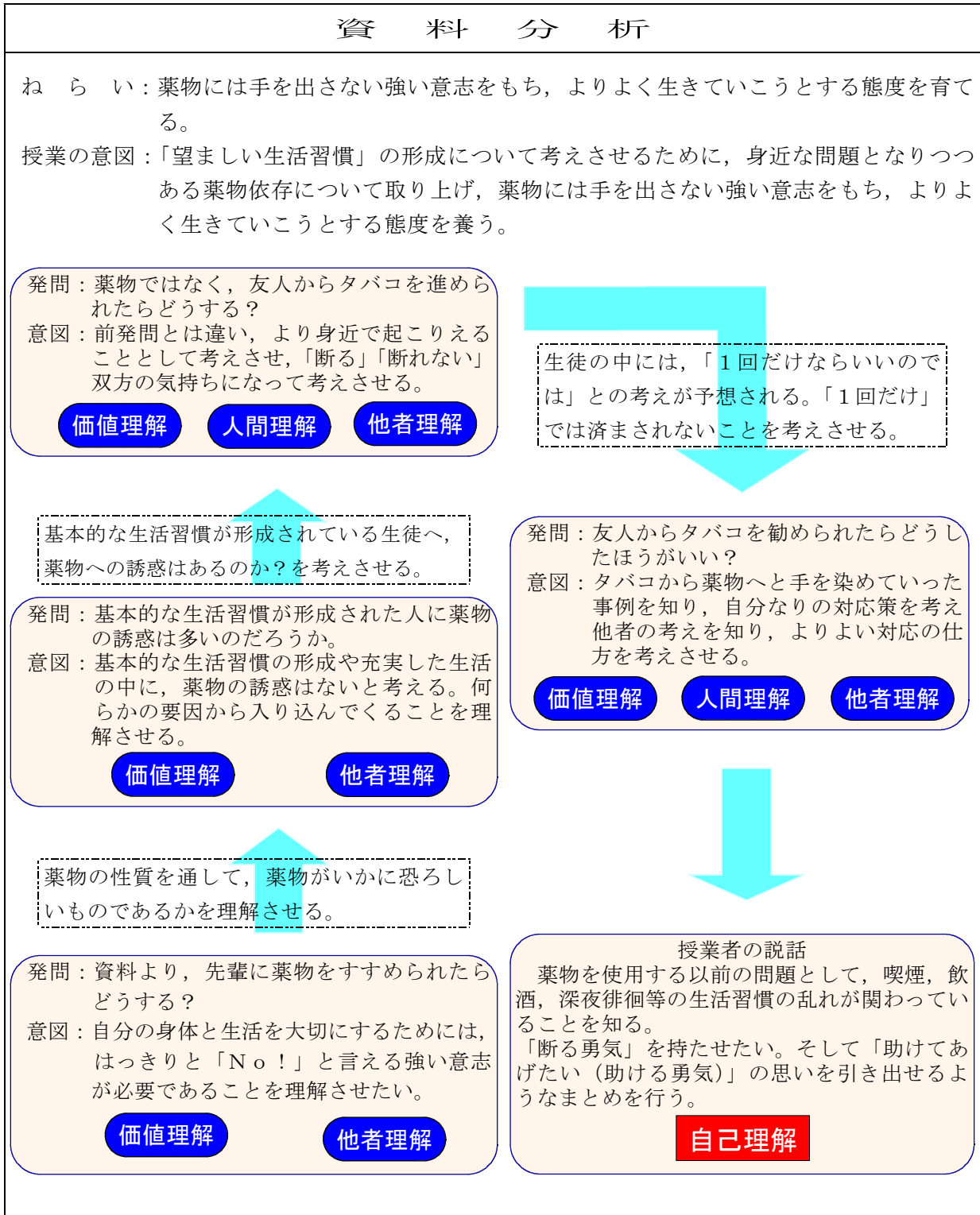


図4 資料分析図

(5) 研究主題とのかかわり

① 研究主題

主体的に考え豊かな心を育てる学習指導の工夫
—対話型授業とファシリテーション手法を通して—

② 研究目標

道徳の授業において、ファシリテーション手法及び小集団での対話を活かした学習指導の工夫をすることにより、正義感や公正さを重んじる心や他者との共生や異なるものへの寛容などの感性及び道徳的価値を大切にする心（豊かな心）が育成できるかを研究していく。

③ 研究仮説

ファシリテーション手法を活用した小集団による対話活動を行うことで主体的に学習し、より多くの道徳的価値に触れた授業展開ができ、豊かな心が育成できるであろう。

④ 研究の流れ（報告会説明用資料より）

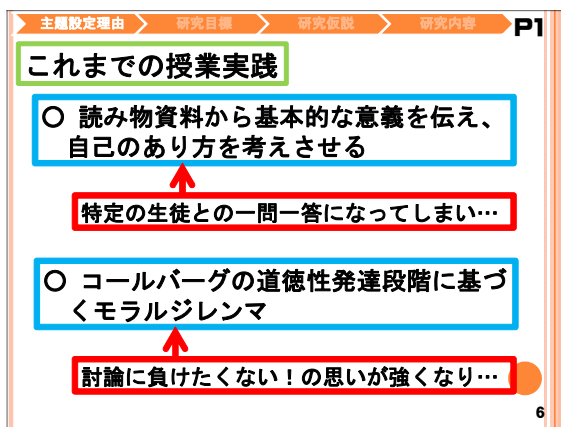


図5 これまでの授業実践

これまでの授業実践を振り返ると

扱った教材にもよるが…
それぞれに、ねらいとする道徳的価値への補充・深化・統合がなされていないような課題があった。

研究対象となる学級の実態として中心的で腕力のある男子生徒と相反する価値等の発言ができない。賢い女子生徒の発言が全て正しくそれ以上の答えはない。

また、事前アンケートより、道徳の授業では自分の意見が言えない、意見を聞いてもらえない。でも、友だちの意見は聞きたい、との結果がでている。

この実態を改善すべく、小集団、ファシリテーション手法を取り入れた

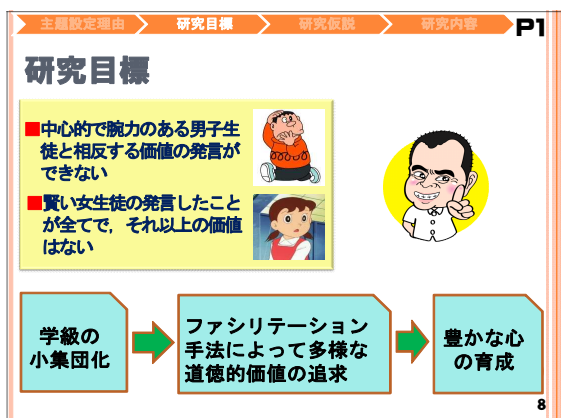


図6 研究目標図示

【ファシリテーション手法とは】

ファシリテーションは、「促進する」「容易にする」「円滑にする」「支援する」というのが原意である。参加者の活動が容易にできるように支援し、うまく事が進むように促していくのがファシリテーションの機能である。また、学習の場において学習を促進・支援する役割を総合的に担う人をファシリテーターと呼ぶ。

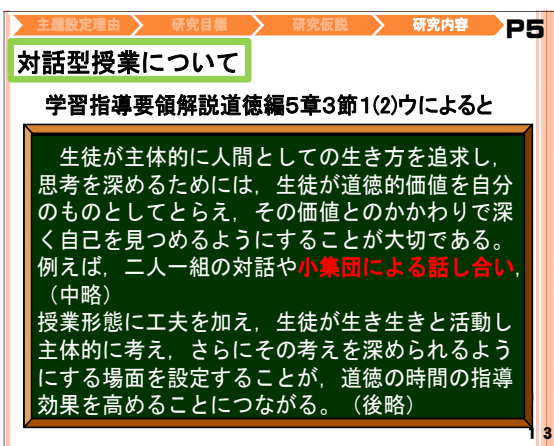


図7 対話型授業について

何故、道徳の授業で対話型なのか

学習指導要領において小集団による話し合い活動は有効であるとされている。自分との対話、教材との対話、友人との対話がなされ、道徳の時間の指導効果を高められる。

4 本時の学習活動

(1) 本時のねらい

- ① 薬物が蔓延していることを知り、薬物の恐ろしさと、薬物依存の背景を考えさせる。
- ② 自分の身体と心、生活を大切にするために、はっきりと薬物を断ったり、助けを求める態度を育てる。

(2) 本時の展開

	学習活動と ◎中心発問 ○主な発問	●予想される生徒の反応	□指導上の留意点
導入 5分	1. 麻薬や覚醒剤、シンナーなどが広がりを見せていることを知る。	●身近で起こることもある世の中なんだ。 	□ 25%の人が、薬物を目前にした誘惑のある社会であることを知らせる。(10年前のデータ)
展開	2. 資料「Just Say No!」を読み、薬物について考える。 ※薬物の依存性の高さなどの恐ろしさを知る。 ○先輩に薬物を進められたらどうする？ 3. 基本的な生活習慣について考える。 ○基本的な生活習慣が形成されている人に薬物の誘惑はあるのだろうか？ どんな人に誘惑がある？	●怖いものなんだなあ ●断る ●絶対にイヤ ●怖い先輩だったら、断れないかも ●生活習慣がしっかりしていたら誘惑はない ●深夜徘徊や飲酒、喫煙などで生活習慣が乱れていたら危ないかも	□資料の読みを途中で終える。 □薬物の恐ろしい性質を確実に押さえておく □挙手による人数確認 
	<p style="text-align: center;">【話し合い活動①】</p> <p>○薬物ではなく、タバコを友人から進められたらどうする？ ①ファシリテーターの進行で話し合い活動を行う ②熟慮の後、意見をしっかりとめグループ内で発表する ③「断る」「断れない」双方の気持ちをそれぞれまとめる ●してはいけないことだからしっかり断る ●後で仲間外れにされるかもしれない…1回だけならするかも</p>		□熟慮時間の確保 □「断れない」の気持ちに着目する。 「1回だけならいい…」 「仲間外れにされそう」 □話し合い活動の中で、メモをとる時間を確保させる
	  <p>※タバコから薬物へと、手を染めていった中学生の話を書く。</p>	●そんな身近で起こっているのか…	□熟慮時間の確保 □メモ時間の確保
40分	<p style="text-align: center;">【話し合い活動②】</p> <p>◎タバコを友人から進められたらどうした方がいいのだろう ①ファシリテーターの進行で話し合い活動を行う ②熟慮の後、対応策について話し合う。 ③グループ内での話し合い後、ホワイトボードで提示。 ●友人であってもダメなものはダメと断る。 ●断るし、タバコもやめるように言う。</p>		□ホワイトボードの使用 
	4. 各グループからの発表を共有する。	●いろいろな考えがあるんだなあ	□教師がファシリテーターとなり進行する
終末 5分	5. 教師の説話 授業で学んだこと、考えをまとめ自分を見つめ直す。		□助けを求めることは、大切であることを理解させたい。

5 検証授業（対話型授業）の指導計画

月	日	主 題 名 ・ 資 料 名	指 導 内 容
12	2	自分の考え・他者の考えを認め合う 【無人島SOS】	4－(4) 集団の意義，集団生活の向上 自分と他者の考えの違いを認め合い，進んで集団生活の向上に努めようとする態度を育てる。
12	16	「自律」して生きる 【家を出る日のために】	1－(3) 自主・自律と責任 自分の暮らしを管理することについて考え，「自律」して生きていこうとする態度を育てる。
12	20	気持ちのよいあいさつ・マナー 【言い方ひとつで気持ちもなごむ】	2－(1) 礼儀・適切な言動 礼儀の意義を理解し，日常生活の中で適切な言動をとろうとする態度を育てる。
1	7	正義とは何だろうか 【万引きのはてに…】	4－(1) 遵法，社会秩序の向上 法やまじりの意義を理解し，社会の秩序と規律を高め用とする態度を育てる。
1	20	思いやりの心と生きる力 【あなたの夢はなんですか？】	3－(3) 人間理解と生きる喜び 厳しい状況の中でも希望をもって生きようとしている人間のたくましさに共感する心情を養う。
1	27	郷土の農業のために 【レジェンド オブ ミヤーク】	4－(8) 郷土愛・先人への尊敬 郷土を支えた先人たちの努力に感謝し，進んで地域の発展に尽くす態度を育てる。
1	31	薬物から身を守る 【Just Say No!】	1－(1) 望ましい生活習慣 薬物には手を出さない強い意志をもち，よりよく生きていこうとする態度を育てる。

6 板書計画

各グループ
ホワイトボード

○ 友人にタバコをすすめられたらどうした方がいいのだろうか

○ 友人にタバコをすすめられたらどうする断れない理由

○ 先輩に薬物をすすめられたらどうする断る 名 断れない 名

○ 薬物の性質

精神依存
※説明文

耐性
※説明文

身体依存
※説明文

シンナー
麻薬
大麻
覚醒剤
MDMA
コカイン
ヘロイン
あへん

VII 結果と考察

1 調査研究の結果

(1) 調査概要

① ねらい

研究対象となる生徒たちが、道徳の時間についてどのように感じているのか、道徳的な価値に対してどのような考えを持っているのかを確認する。検証授業の期間を経てどのように変化するのかを検証する。

② 調査内容・方法

調査内容は、道徳の時間に関する6項目（(2)アンケート結果へ記載）及び、検証授業に関係する道徳的価値項目14（仮説の検証(3)へ記載）の、計20項目を質問用紙により調査した。

③ 調査時期

1回目：平成25年11月26日（火）6校時に実施

2回目：平成26年2月4日（火）6校時に実施

(2) アンケート結果

① 「道徳の時間の中で発言しやすい雰囲気がある」の問いに対して、検証前と検証後では両方とも87%の生徒が、「はい」「どちらかというとはい」との肯定的な回答をしている。その中で、「はい」と回答した生徒が26%から61%へ35ポイントも増加していることが分かる。生徒からは「少人数だと話しやすい」「ファシリテーターが指名して発表しやすい」等の声があった。

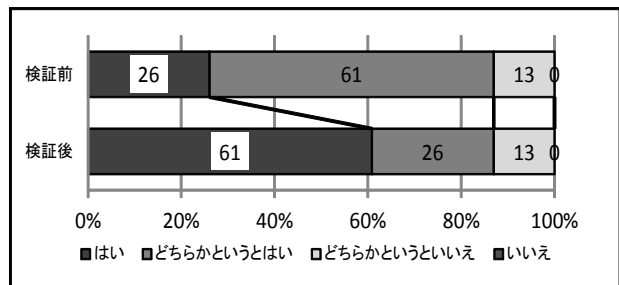


図8 アンケート結果①

② 「道徳の時間に発言したいと思う」の問いに対して、検証前は61%の生徒が肯定的な回答をしている。検証後に「何度もしているうちに話しやすくなった」等の肯定的な回答が16ポイントの増加となっている。しかし、「いいえ（発言したくない）」と否定的な回答が0%から9%へ増加している。理由として「それは違うだろ！とすぐに否定されることがある」「これくらいも分からないの？と言われたりする。」が挙げられている。話し合い活動の手引きに沿った話し合いができていないことと、クリティカルシンキングについての認識不足が原因として考えられる。

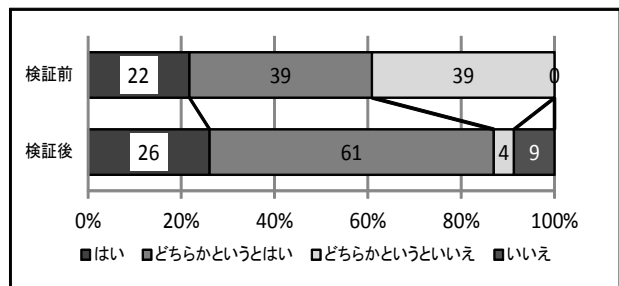


図9 アンケート結果②

③ 「道徳の時間に自分の考えを聞いてもらえている」の問いに対して、検証前に87%の生徒が肯定的に回答し、検証後には95%の肯定的な回答になっている。その中であって、「はい」と回答した生徒が13%から78%へ65ポイントも増加したことは大きな成果である。話し合いの手引きを活用したファシリテーション手法を取り入れた成果と考える。

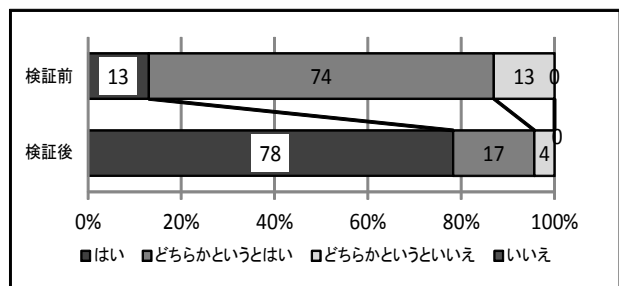


図10 アンケート結果③

④ 「道徳の時間に友だちの考えを聞きたいと思う」の問いに対して、検証前にも95%の生徒が肯定的にとらえていた。その中で「はい」の回答が22ポイント増えたこと、4%の否定的な回答が0%になったことが成果である。生徒からは、「友だちの考えを知ることによって、自分の考えを深めることができた」「友だちの意見を聞いて、自分の考え方が変わった」等の声があった。

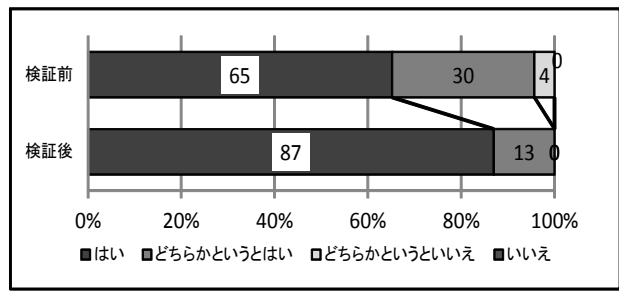


図11 アンケート結果④

⑤ 「道徳の時間に自分の考えをまとめたり振り返ったりできる」の問いに対して、検証前は17%の否定的な回答があったが、検証後は全員が肯定的な回答になっている。「話し合いで考えを深め、ワークシートやホワイトボードにまとめることができた」の意見が多数出されていた。しかし、検証授業の多くが授業を振り替える時間の確保ができなかった。授業展開の工夫が必要である。

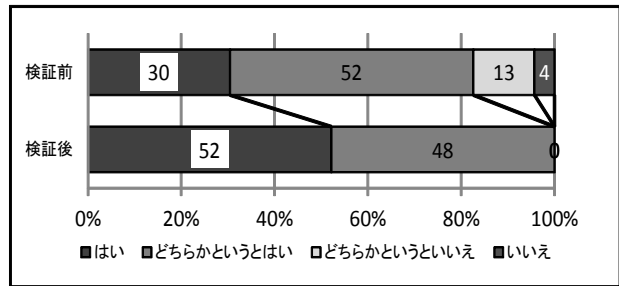


図12 アンケート結果⑤

⑥ 「道徳の時間が好きであるか」の質問に対して、検証前87%の生徒が「はい」「どちらかというとはい」と回答している。肯定的な回答が多くなってきているが、その理由を訪ねてみると、「全体講話が勉強になった」「学級レクが楽しかった」「図書室での読書が良かった」等、道徳の時間そのものの評価ではなかったと考

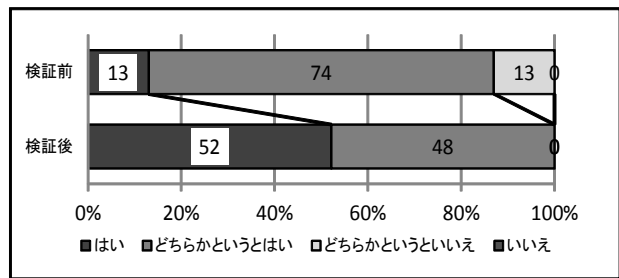


図13 アンケート結果⑥

えられる。学校現場の教師から「道徳の授業は難しい」「何をやっていいのかわからない」との声が聞かれたり、学校や学年全体として何らかの集会の時間にする実態がある。生徒は「道徳の時間は好きである」と全員が肯定的に答えていることをしっかりと受け止めねばならない。道徳の授業の教科化云々ではなく、我々はしっかりと道徳の授業について考える必要がある。

2 仮説の検証

(1) ファシリテーション手法を活用した小集団における話し合い活動は適切であったのか。

前述の調査研究アンケート結果①～⑥より、質問項目全てにおいて肯定的意見の増加があったことから、ファシリテーション手法を活用した小集団における話し合い活動は、道德の時間の進め方として適切であったと考えられる。

(2) 生徒は主体的に学習し、より多くの道德的価値に触れることができたか。

薬物乱用について考えさせる検証授業において、「友人にタバコをすすめられたらどうする」「断れずに吸ってしまう状況」について話し合い意見を出し合う場面において、「暴力を受けるのが怖いから」「仲間外れにされそう」「気持ちが沈んでいたらやるかも」「友だちでなくなりそう」「みんなでやると楽しそう」「タバコを吸うことに憧れがある」「興味がある」「バレなければいい」等の意見が出され、自分のこととしてしっかりと考える様子が見られた。

また、授業終盤の「友人にタバコをすすめられたらどうした方がいい？」について、話し合いとまとめを行わせると、「断る（強い意志・正義）」「止めさせる（友情）」「先生に相談する（遵法・望ましい生活習慣）」「未来について考えさせる（生命尊重・希望）」等の発表を行い、生徒個々が持つ多くの価値観に触れることができた。

生徒たちは、自分のこととして主体的に考え、公開授業により多数の参観者の中にあっても、発表しづらい意見をも発表できた。ファシリテーターの進行による話し合い活動において、主体的に学習し、より多くの道德的価値に触れることができたと考える。

(3) 豊かな心育成の為の動機付けはできたか

学習指導要領解説による豊かな心の定義は「他人を思いやる心や社会貢献の精神、生命を大切にし人権を尊重する心、美しいものや自然に感動する心、正義感や公正さを重んじる心、他者と共に生きる心、自立心や責任感など、」となっている。これは、道德の時間で取り扱う 24 の内容項目を指すものであると考える。その中から、検証授業で取り扱う下記項目にて豊かな心が育成できるのかを検証した。

1	人として、してはならないことをしない (うそをつかない、人を傷つけない、人のものをとらない等)	前	65	22	13	0
		後	74	22	4	0
2	自分には、良いところがあると思う	前	30	48	17	4
		後	35	48	17	0
3	ものごとを最後までやり遂げて嬉しかったことがある	前	83	17	0	0
		後	78	22	0	0
4	難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している	前	30	65	4	0
		後	35	61	4	0
5	将来の夢や目標に向かって努力する人間になりたいと思う	前	91	9	0	0
		後	91	9	0	0
6	学校のきまりを守っている	前	30	61	9	0
		後	48	48	4	0
7	家の人や友達との約束を守っている	前	61	39	0	0
		後	70	30	0	0

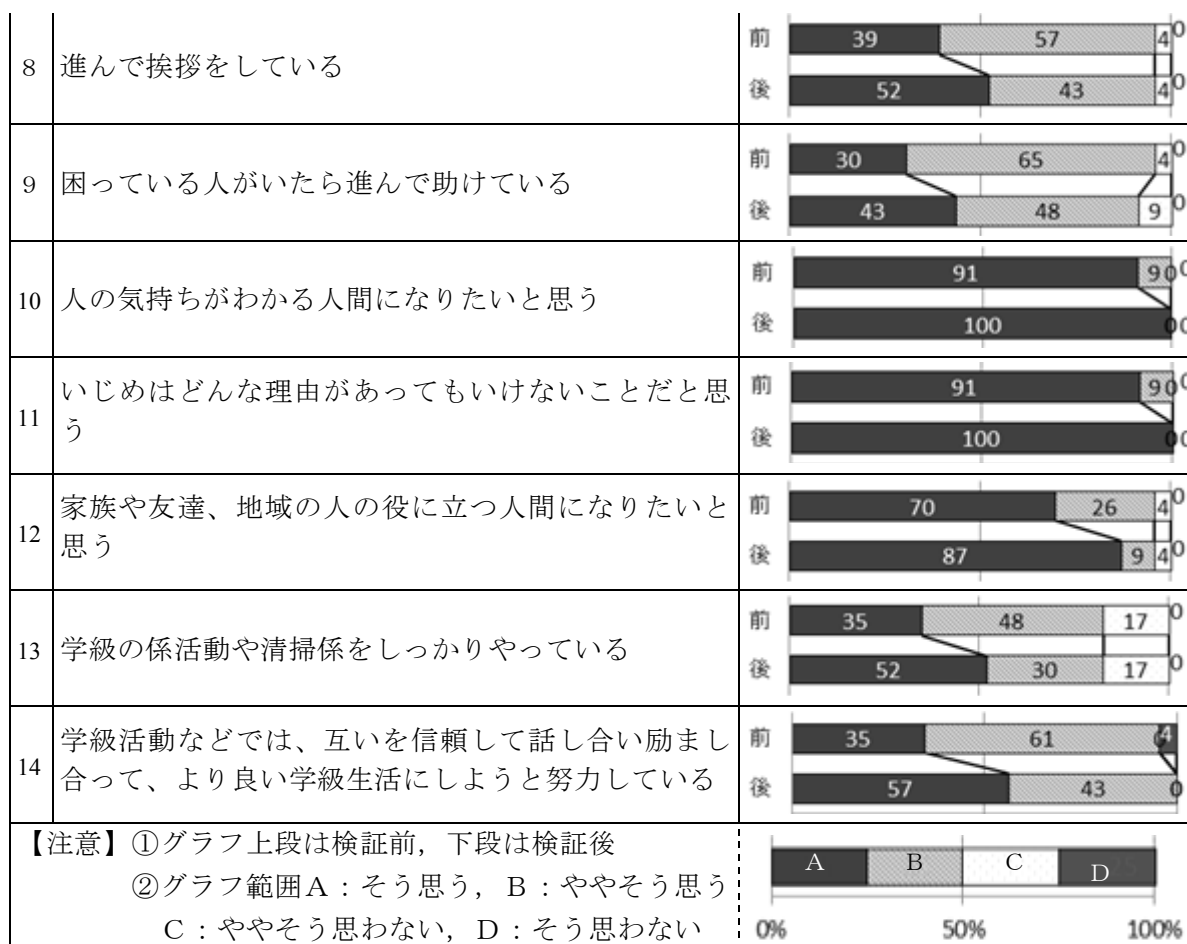


表2 道徳の時間に関するアンケート

N=23

回答A・Bは肯定的な回答，回答C・Dは否定的な回答となっている。質問項目1，2，14の否定的な回答が減り肯定的な回答に移行した。そして，肯定的な回答Bの減少に合わせてより強い肯定的回答Aの増加が多く項目でみられたことから，検証授業により豊かな心を育成するための動機付けはできたと考える。

VIII 研究の成果と課題

1 成果

- (1) 道徳の授業に話し合い活動を取り入れた対話型手法を取り入れたことで，生徒たちは多くの道徳的価値に触れることができた。
- (2) ファシリテーターを活用した授業を通して，グループ内の対話が活発になり，自他の意見の比較や集約ができた。
- (3) オープンクエスチョンやクリティカルシンキング（批判的思考）を用いた話し合い活動を行うことで，話し合いに深まりができるようになった。
- (4) 対話型の検証授業を行ったことにより，生徒同士が多様な価値観に触れ，豊かな心を育てる動機付けができた。

2 課題

- (1) 対話型授業に適した資料選択及び資料の吟味が必要である。
- (2) 23名の生徒中でファシリテーターになれたのが7名であった。全員がファシリテーターになれるような継続的な指導を行う必要がある。
- (3) 進行役にファシリテーターとしての資質を徹底させる必要がある。
- (4) 授業展開における話し合い活動時間の確保。

〈主な参考文献〉

- 文部科学省 2008 『中学校学習指導要領解説 道徳』
- 東京都教育委員会 2012 『教育研究員研究報告書「道徳」』
- 赤堀博行 2013 『道徳授業で大切なこと』 東洋館出版社
- 赤堀博行 2010 『道徳教育で大切なこと』 東洋館出版社
- 佐藤学 2012 『学校を改革する』～学びの共同体の構想と実践 岩波書店
- 佐藤雅彰・佐藤学 2011 『中学校における対話と協同』～「学びの共同体」の実践 ぎょうせい
- 佐藤学 2009 『教師花伝書』～専門家として成長するために～ 小学館
- 多田孝志 2011 『授業で育てる対話力』～グローバル時代の「対話型授業」の創造～ 教育出版
- 岩瀬直樹・ちよんせいこ 2011 『よくわかる学級ファシリテーション』～かかわりスキル編～
解放出版社
- 岩瀬直樹・ちよんせいこ 2013 『よくわかる学級ファシリテーション』～授業編～ 解放出版社
- 堀公俊・加留部貴行 2010 『教育研修ファシリテーター』 日本経済新聞出版社

〈指導助言〉

- 琉球大学 上地完治教授
- 宮古教育事務所 仲榊京子主事
- 宮古島市立福嶺中学校 宮国敏弘校長
- 宮古島市立城辺中学校 砂川義治教頭

〈資料提供〉

- 宮古島市立福嶺中学校 与那覇周作教諭